

塗料原材料価格高騰続く・日銀の製造業部門投入物価指数 2022 年 4 月の動向

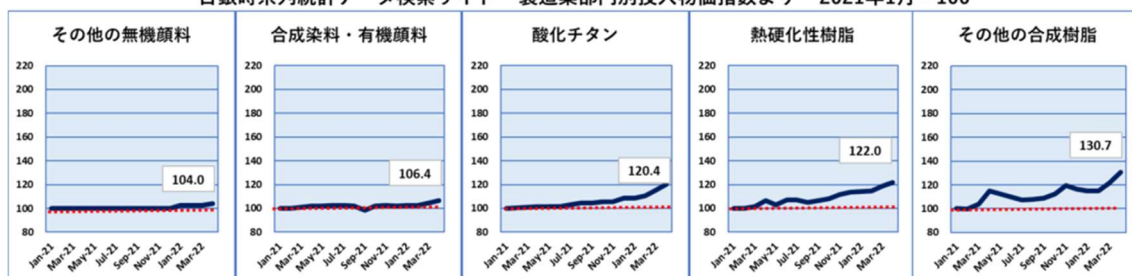
- 水曜日 - 016 月 2022

5 月末に掲題の日銀の製造業部門投入物価指数 2022 年 4 月の値が発表になりました。先月に引き続き、塗料に関係がありそうな物質を選んでご紹介します。日銀の発表は 2011 年=100 の指数値として発表されますが、ここでは 2021 年 1 月=100 とした指数値に換算してご紹介します。この投入物価指数は極めて多数の物質の価格指数が収録されていますので、ご興味のある方は下記 URL をご参照ください。

[https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=\\$nme_a000&lstSelection=PR03](https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=$nme_a000&lstSelection=PR03)

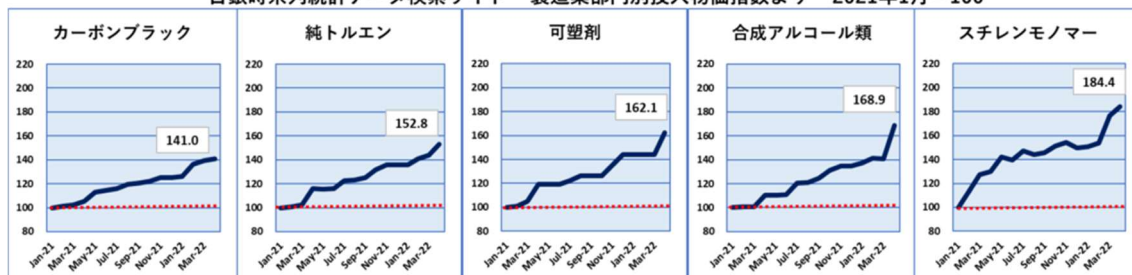
今月も 2021 年 1 月=100 とした時の 2022 年 4 月の指数の低い順にご紹介していきます。

日銀時系列統計データ検索サイト 製造業部門別投入物価指数より 2021年1月=100



これらの中では、酸化チタンと無機顔料はともかくとして、合成染料・有機顔料や樹脂材料がさほど値上がりしていないのが意外に思われるかもしれません。実は合成染料・有機顔料は、2011 年=100 とした指数そのものは 200 を超えており 10 年以上の長いスパンで見れば十分値上がりしているのですが、2021 年 1 月以降で見るとさほどでもないということなのです。また樹脂材料は過去の例でも、原油やナフサの値上がりがタイムラグのあと波及し、かつインパクトもやや弱められるという傾向があります。ですので、まだこれから遅れて上がってくる可能性があります。

日銀時系列統計データ検索サイト 製造業部門別投入物価指数より 2021年1月=100

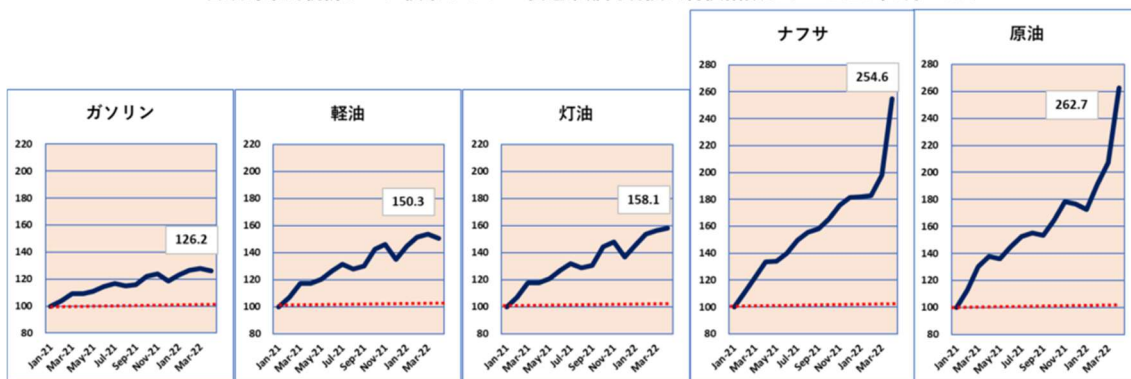


カーボンブラックは油を燃やして製造するので原油に連動します。ここに並んだ化学物質は基本的に石油連動型と考えられます。総じて言えば、昨年 1 月以降方今までで 1.5 倍前後になったということです。



最後に石油系混合溶剤とキシレンですが、これはほとんどナフサ連動と言ってもよいような状況です。それに比べると塗料の価格上昇は極めて緩徐です。しかし、10年ほど遡ってもここまで動いたことがないくらい価格が変動しなかった商品群ですので、これでも大変に珍しいことと言えます。最後に石油関連品の指数です。

日銀時系列統計データ検索サイト 製造業部門別投入物価指数より 2021年1月=100



原油とナフサの高騰ぶりが目を引きますが、この二つは完全に連動しています。これらの中でガソリンの値上がり幅が最も小さいのは、価格に占める税金のためと思われます。また政府からの補助金も出ています。決して石油業界が国民のために値上げを躊躇しているわけではないと思います。

最後に3月から4月への各品目の指数変化の一覧表を示します。

2022年3月から4月にかけての指数（2021年1月=100）の変化

品目	Δ指数	品目	Δ指数	品目	Δ指数
酸化チタン	5.5	合成アルコール類	28.1	塗料	-0.2
カーボンブラック	1.8	スチレンモノマー	7.8	原油	55.6
その他の無機顔料	1.6	合成染料・有機顔料	2.0	ナフサ	56.6
純トルエン	9.1	可塑剤	17.9	灯油	1.8
キシレン	4.1	熱硬化性樹脂	3.2	軽油	-3.4
その他の芳香族製品	6.1	その他の合成樹脂	9.2	ガソリン	-1.5

3月から4月にかけて指数が二桁であがったのは、原油、ナフサ、合成アルコール、可塑剤でした。一方で下がったのは、塗料、軽油、ガソリンでした。ウクライナ侵攻の長期化、EUによるロシア産原油の輸入禁止などこの先も石油関連製品の価格動向は楽観視を許さない状況かと思えます。今後もウオッチを続けます。